

自立そして共同参画へ

男女が共に支える社会を目指すには、「自立」が大切な要素ではないでしょうか。岩手県が平成16年3月に行った「男女が共に支える社会に関する意識調査」の結果から、自立から共同参画へつながっていくヒントを考えてみました。

グラフから見えること

「男は仕事、女は家庭」という考え方は変化している？

男女や年代の違いはあっても、全体の約7割が「同感しない」としています。男は仕事だけ、女は家庭のことだけをしていればいいという意識が変化した表れだと考えられます。日々の暮らしの中ではどうなのでしょう。



年代で見えてくる違いは？

<20代>

女性は20代が30代から50代に比べ「同感する」が多くなっています。男女共に「分からない」が多いのは、自分の役割分担を意識する場面が少ないからではないかと考えられます。

<30代から50代>

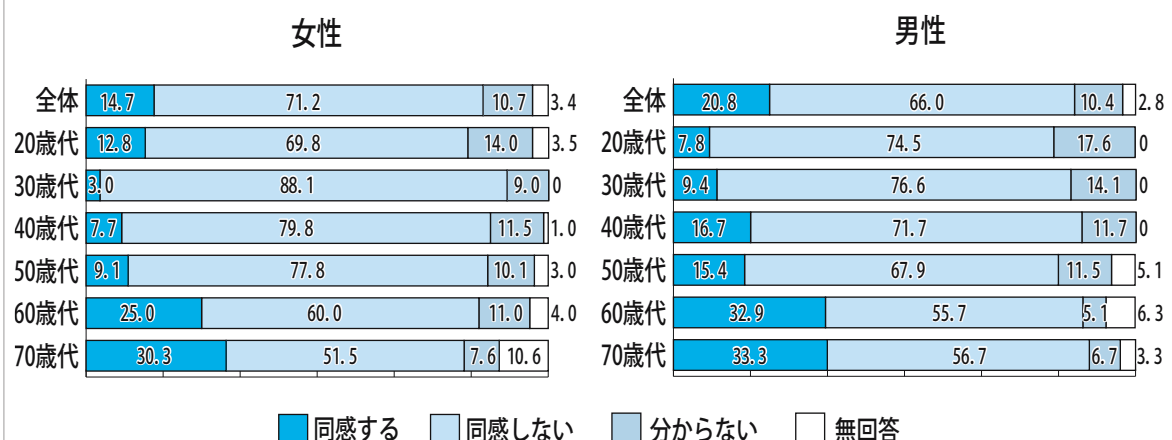
男女共に「同感しない」が多くなっています。住居や、育児、教育、介護などの支出が多く、生計維持のために共働きをしていることが理由のひとつと考えられます。特に30代で多いのは、就職するときにはすでに男女雇用機会均等法などができていたことも関係していると考えられます。

<60代以上>

男女共に「同感する」が多いのは、育った時代の教育や社会背景があるのかもしれません。

男女の役割分担についての「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか

男女全体 17.9% 68.1% 10.8% 3.2%



資料：岩手県「男女が共に支える社会に関する意識調査」（平成16年3月）



共に支え合う自立とは



自立にはいろいろあります

わたしたちが考える自立は

自立そして男女共同参画へ

<経済面では>

仕事で収入を得て、生活ができることなど。

<生活面では>

身の回りのことを準備したり、整えたりできることなど。

<精神面では>

自分の生き方を考え、決めることができ、責任を持つなど。

<地域では>

周りの人とのかかわり合いの中で、いろいろな考え方や意見などを認め合い、協調していくことなど。

身の回りのことができることや、経済的に収入を得ることなどが、自立の第1歩だといわれています。しかし、それだけではありません。多数の意見に流されたり、他人に任せきりにしないで、相手の意見を認めながら、自分で考えていくことが大切だと思います。



男女や年代、立場や環境の違いにより、いろいろな自立があります。自分でできることから始めませんか。家庭や地域など、周りの人たちとコミュニケーションを取りながら、助けられたり助けたりして自分の人生を築いていくことで、男女共同参画社会の実現につながっていくと思います。

男女共同参画

あなたとわたしのかかわり方

今回は、定年退職した年代と共働き子育て年代、2組の夫婦へのインタビューを通して、自分の意見を明らかにする一方で相手を受け入れることができる生き方のヒントを探してみました。

★ お互いの違いを認め合う



省 一 さん (71歳)
チャ子 さん (68歳)

🕒 素直な気持ちで

夫：料理はしませんが、気が向けば作ります。以前はしましたよ。共働きでしたからね。でも、女性が食事のしたくをするのが普通ですよ。

妻：わたしも、そう思いますね。夫は昭和ひとけた生まれなので、家事は男性がするものではないと、殿様ようでした。最近は、いくらかしてくれるようになりました。

夫：今の時代だからとか思いやりとかで、するようになったのではありませんよ。どちらも意見をしますが、お互いに受け入れ、素直な気持ちでかかわり合っているからでしょうね。

🕒 自然な流れで

妻：自立については取り立てて考えたことはなく、自然な流れとしてしていました。

夫：妻は、自分では思っていないかもしれませんが、家庭でも外でも十分自立していると思いますよ。

妻：家計に関しては、わたしに任せてもらっていましたが、年金生活になってからは、支出内容で分けています。

夫：年金の目減りには、漠然とした不安を感じていますが、特に対策は考えていません。気取らず飾らず自然体ですね。

🕒 理解し合って干渉しない

夫：地域の活動は妻が出て、わたしは陰で協力し、黒子に徹しま

した。

妻：子どもや家庭内のことを見てくれる人がいると、女性も出やすくなります。男性にも家庭のことを勉強してもらうことが大切だと思います。

夫：最近は個人の生活を一番に考えるような風潮になっていますね。社会に奉仕するという気持ちが少ないのではと感じます。

妻：わたしは地域の婦人部長を22年間しました。続けることができたのは、夫や子どもの理解と協力があったからと思っています。女性が家庭から出て活躍するには、夫が妻を前に出してあげることが大切です。特に若い人には考えてほしいですね。

夫：男女を問わず趣味を持つと外に出やすくなりますし、仲間ができます。それに、役割や責任を持つことで、自覚が育ちますからね。それぞれに趣味を持って、理解し合い干渉しないことが、家庭内の自立につながります。お互いの違いを認め合うことですよ。

🕒 気づけなかった

夫：今は授乳などがあるので、手が空いている僕が、朝食作りと子どもとの入浴や遊びを受け持っています。

妻：以前はわたしが作ってましたが、朝早く出勤しなければならなくなったので頼みました。

夫：別にいやではなかったのですが、正直、言われるまで気付きませんでした。

🕒 家族になったのだから

妻：共働きになると思っていましたし、わたしは、実際に仕事を持ち帰ることも多く、家事を協力してほしかったのです。結婚当初は家事の分担を決めました。そのうち何となく、できるほうがするようになりました。

夫：僕はずっと実家暮らしで、家事をしたことはありませんでした。でも、家族になったのだから、徐々にしなければと思っていました。

妻：夫は自分の意見をはっきり言う

ほうではないのですが、態度で分かります。わたしは言葉に出すほうです。大事なことは言わないと分かってもらえないから。一緒に子育てができるのは、夫の協力があってこそとありがたく思っています。

夫：言われないと分からなかったときもありました。いろいろ助けられることが多いので、妻には感謝しています。2人の共同生活なので、お互いに補い合っていかなければ、今の生活基盤を守るのは厳しいですね。

🕒 無理なく自然に

妻：引っ越したばかりでしたが、ご近所を知るチャンスと考え、町内会の班長を引き受けました。

夫：いずれはしなければならいので、早めに引き受けておこうと思ったのです。掃除は2人で、回覧などは分担してできるほうがしました。

妻：総会は、わたしが出ました。いつも2人でしているので、配布物などが夫の名前で来ても、

★ コミュニケーションが大事



しんご さん (32歳)
みずす さん (33歳)

気にしたことはありません。

夫：できれば役員は避けたいですが、子どもの交流を通してご近所付き合いをしたいですね。

妻：少しずつ無理なく自然に広がればいいと思っています。でも、PTAは保護者や地域とのかかわりがないと成立しないので、自分から積極的に参加するかもしれません。

夫：家庭でも地域でも、やはりコミュニケーションが大事だと思います。

はてな

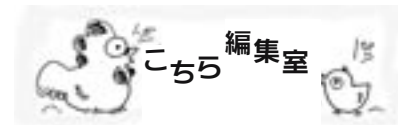


© 向井田泰子

☆盛岡女性塾公開講座☆ パネルディスカッション 「私が考えるジェンダー」

- ◆日時 11月18日、13時半～15時半
- ◆会場 総合福祉センター3階 (若園町)
- ◆コーディネーター 平賀 圭子さん
- パネリスト 藤川 智美さん
佐藤 晴久さん
石田 紘子さん

※入場無料です。
直接会場へどうぞ。詳しくは、もりおか女性センター ☎604-3303 へお問い合わせください。



▼インタビューはどちらも素敵なカップルでした。自然体なかかわり方を参考にしたいと思います。(M)

▼年を重ねても自立が出来ているのかな。日々、これは出来ているな、これはまだかな、と錯綜しているわたし。(ココ)

▼「男だから、女だから」から「男であっても、女であっても」という考えに自然になればいいな。(Y)